

令和4年度  
学校関係者評価報告書

学校法人常陽学園  
専門学校東京医療学院

## 令和4年度 学校関係者評価報告書

専門学校東京医療学院では、学校法人常陽学園の建学の精神である「人に優しく、社会に貢献できる人材の育成」に基づき、医療専門職に必要な最新の知識と技術を学ぶとともに、障害をもつ人々の気持ちを理解し共感できる、優しい心を持った専門職人材を育てることを教育理念とし、その教育活動及び学校運営について自己点検・自己評価を実施しています。

さらに、当校の卒業生、関連業界及び地域住民等からなる「学校関係者評価委員会」を設置し、自己点検・自己評価の結果に基づいた、客観的で公正な評価を実施し、社会のニーズを踏まえた実践的な職業教育の実現を目指しております。

当校の今後の教育活動及び学校運営の改善にあたり、学校関係者評価委員会でのいただいたご意見等を公表することで適切に説明責任を果たすとともに、開かれた学校づくり及び関係業界への理解促進並びに連携協力に真摯に取り組んで参ります。

### 令和4年度 学校関係者評価委員会

---

#### <構成員>

委員長：古田 直弥 氏	社会福祉法人浅草寺病院 理学療法士【関係業界・卒業生】
委員：河部 直紀 氏	有限会社総合リハビリ研究所 地域連携推進室室長・事業推進室室長 理学療法士【関係業界・卒業生】
梅村 悟 氏	帝京大学スポーツ医科学センター 理学療法士【関係業界・卒業生】
事務室：武田 淳史	校長
川崎 孝晃	理学療法学科 副校長・昼間部学科長
小堺 秀樹	理学療法学科 夜間部学科長
和田 公利	事務長
束原 毅	事務室（書記）

<学校関係者評価委員による評価、意見等>

#### 教育理念・目標について

1. 臨床実習について、医療施設にとっては、実習生の受入は重要な採用活動の一環でもあるが、実習指導を通じ、特に最近の学生の知識・技術・コミュニケーション能力についての質的低下を感じている。コロナ禍の影響は大きいとは思われるが、ただ臨床実習を通ればよいのか、国家試験の合格は難しいと思われる学生が多くなったと感じている。医療施設側としては、受け入れた実習生は採用に応募して欲しいと考えているが、臨床実習の現状をみると、安定的な採用には繋がらないと危惧している。

#### 学校運営について

1. 今後、社会的に新型コロナウイルス感染症は徐々に収束していくと思われるが、学校運営においては、コロナ禍収束を見据えた通常の学校生活に戻れるとともに感染症対策にも配慮したウィズコロナの学校運営を目指していくべきであると考え。  
学生アンケートや、担任の個人面談により、在校生が感じている不満やニーズを的確に捉えて緩和すべきところは実施し、警戒を継続していくところは引き締め、できる限り在校生の満足度を高めていく事を意識した運営を行っていく。

#### 教育活動について

1. 本校では、新カリキュラムに移行後、初めての臨床実習を実施した。従前の臨床実習と基準が変わり、現場の先生方にも教育指導において多大な苦勞をおかけしているが、まずは生徒の教育活動に影響がないよう配慮することが重要である。
2. 学校生活は、徐々にコロナ禍を脱しつつあると思うが、実習先である医療施設においては、引き続き徹底した感染症対策が求められるため、実習期間中の生活態度など、学校としてもしっかり指導して欲しい。また、教育活動への評価は、退学者数や留年者数が一つの指標になると思われるが、昨年度は昼間部・夜間部ともに同程度の退学者数・留年者数で推移している。今年度は一人でも減少できるように継続して魅力ある学校づくりを進めて欲しい。

3. 学術大会や教員研修の開催がWEBで行われることが多いが、ほとんどの開催が見送られた昨年度に比べて開催数が増えている。最新の知識・技術はこのような研修会でないと知る機会がないため、教員の方にも引き続き積極的に参加して、教育活動に活かしていただきたい。

#### 学修成果について

1. 国家試験の合格率について、残念ながら目標とする全国平均に届かなかった。個々のクラスの人数が少ないため、不合格者の1名あたりの比重が大きいため、致し方ない側面もあるかと思うが、数字が下回っていることは事実であり、なおかつ国家試験合格率は、当校の生徒募集にも直結するので、来年度はより一層の奮起を期待したい。コロナ禍の下、生徒に対して学校生活を大きく制限されたことの影響はあったと思われるが、改めて学校生活や指導内容・方法について適宜改善し、目標を超えるための創意工夫を求める。

#### 学生の受入れ募集について

1. 今年度4月の入学者は、昼間部が定員充足、夜間部は10名ほど定員割れだった。  
夜間部は毎年、定員充足に苦心しているが、近年は特に時代の流れもあり、夜間部という名称は、夜遅くに外へ出るというように、高校新卒者の親御さんには、あまり好印象を持たれないのではないかとの懸念がある。  
小手先になるが、広報媒体において、夜間部という名称を前面にせず、「4年制コース（夜間部）」のような標記で印象を和らげる工夫をしてはどうか。
2. 社会人志願者が減少しているため、夜間部に限り、社会人特別入試にて授業料の減免を導入した。次年度は、同制度を利用して夜間部に8名入学したので、社会人受験者獲得に一定の手ごたえを感じられた。  
今後も、受験生の紹介を促す学費減免制度を、卒業生や実習先に積極的にアピールする高校訪問を積極的に行うなど、受験者数の増加を図ってほしい。

## 社会貢献・地域貢献について

地域貢献に関してニーズを捉えて積極的に活動を展開すべきである。近隣住民に認知され、地域から志願者が生まれる可能性がある。現在、中央区の委託を受け、本校教員が土曜・日曜に行う老人保健施設でのレクリエーション活動の開催などを行っている。

引き続き、学校として積極的にボランティア活動を行い、より一層の地域社会への貢献を図って欲しい。

以上